ユーザーマニュアル

サーマル単眼鏡

FALCON 2.0 シリーズ

V5.5.128 202507

お問い合わせ先

目次

1 概要 1

1.1 デバイスの説明 1

1.2 主な機能 1

1.3 外観 2

2 準備 6

2.1 バッテリーを取り付ける 6

2.1.1 バッテリーについて 6

2.1.2 バッテリーの取り付け 6

2.2 ケーブルの接続 7

2.3 ネックストラップを取り付ける 8

2.4 ハンドストラップの取付 9

2.5 双眼鏡のキャリングバッグの使用 10

2.6 電源オン/オフ 11

2.7 自動画面オフ 13

2.8 メニューの内容 13

2.9 アプリの接続 14

2.10 ファームウェアステータス 16

2.10.1 ファームウェアステータスのチェック 16

2.10.2 デバイスのアップグレード 17

3 画像設定 19

3.1 視度の調整 19

3.2 フォーカス調整 19

3.3 輝度調整 20

3.4 コントラストの調整 20

3.5 トーンの調整 20

3.6 シャープネスの調整 21

3.7 シーンモードの選択 22

3.8 パレットの設定 22

3.8.1 カスタム有効パレット 22
3.8.2 パレットの切り替え 23
3.9 デジタルズームの調整 26
3.10 ピクチャーインピクチャーモードの設定 26
3.11 Zoom Pro 27
3.12 フラットフィールド補正 28
3.13 欠陥画素の補正 28

4 距離測定（LRF モデル） 30

5 距離測定（LRF 以外のモデル） 33

6 一般設定 35

6.1 OSD の設定 35
6.2 画面スタイルの設定 35
6.3 ブランドロゴの設定 36
6.4 焼き付き防止 36
6.5 高温の追跡 37
6.6 キャプチャとビデオ 38
6.6.1 画像キャプチャー 38
6.6.2 オーディオの設定 38
6.6.3 ビデオ録画 38
6.6.4 ローカルアルバムの表示 39
6.7 ファイルのエクスポート 40
6.7.1 HIKMICRO Sight を介してファイルをエクスポート 40
6.7.2 PC を介してファイルをエクスポート 41

7 システム設定 43

7.1 日付の調整 43
7.2 時間を調整する 43
7.3 言語を設定する 44
7.4 PC へのデバイススクリーンのキャスト 44
7.5 単位の設定 45
7.6 診断ログを保存 45
7.7 画面ロックのパスコードを設定する 46
7.7.1 パスコードを有効化する 46
7.7.2 パスコードの変更 47

7.8 デバイス情報を表示 47
7.9 フォーマット 48
7.10 デバイスの復元 48
7.11 デバイスをリセット 48

8 よくある質問 50

8.1 充電インジケーターが正しく点滅しないのはなぜですか？ 50
8.2 電源インジケーターがオフになっているのはなぜですか？ 50
8.3 画像が不鮮明なのですが、どのように調整すればよいですか？ 50
8.4 キャプチャーまたは録画が失敗します。何が問題なのですか？ 50
8.5 PC がデバイスを識別できないのはなぜですか？ 51

1 概要

1.1 デバイスの説明

HIKMICRO FALCON 2.0 シリーズは、高性能の赤外線検出器を搭載した強力で革新的なサーマル単眼スコープです。15 mK 未満の NETD とシャッターレス画像システムにより、シャッターによる中断なしで、超鮮明な画質と詳細認識のシームレスな観察エクスペリエンスが可能になります。本デバイスは、光や天候の条件の影響を受けることがなく、主に山林・原野での狩猟やバードウォッチング、動物探し、冒険、救助などのシナリオに適しています。

1.2 主な機能

- **HSIS（HIKMICRO シャッターレス画像システム）**：これは、画質を損なわない動的な学習プロセスです。これにより、定期的な較正のための一時停止が不要になり、フィールドでの重要な瞬間を見逃すことがなくなります。
- **レーザー範囲(LRF モデルの場合)：**内蔵のレーザー距離計は、ターゲットと観測位置の間の距離を正確に検出します。
- **Zoom Pro**：先進型ズーム画像処理アルゴリズムのおかげでデジタルズームしても画像の鮮明度が最大限に維持されます。
- **ローカルアルバム**：ローカルアルバムには、キャプチャー画像とリコイル作動ビデオが保存されており、ゲームをすぐに入手できるかどうかを明確にするのに役立ちます。
- **自動画面オフ**：この機能を有効にすると、デバイスの角度を変えることでデバイスをスタンバイモードにしたりスタンバイモードを解除し

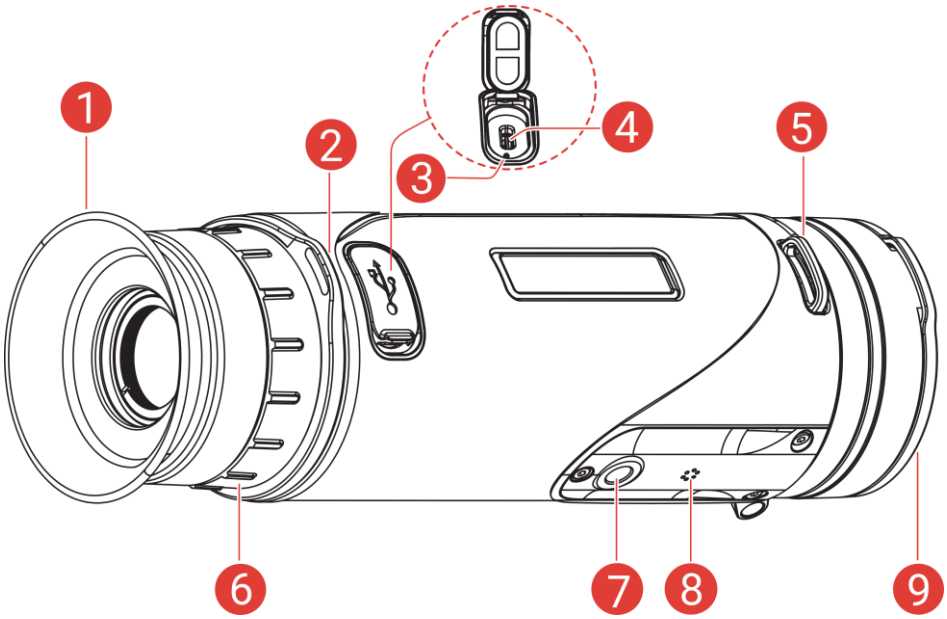
たりできます。この機能により、画面を暗くすることで省エネルギーを実現し、バッテリー寿命を延ばすことができます。

- **アプリの接続**：本デバイスは、ホットスポットを介してスマートフォンに接続することで、HIKMICRO Sight アプリ上でスナップショットをキャプチャーしたり、ビデオを録画したり、パラメーターの設定を行うことできます。

1.3 外観

注意

- 外観はモデルによって異なる場合があります。実際の製品を手に取って参照してください。
- 本書内の画像は、説明の目的でのみ表示されています。実際の製品を手に取って参照してください。



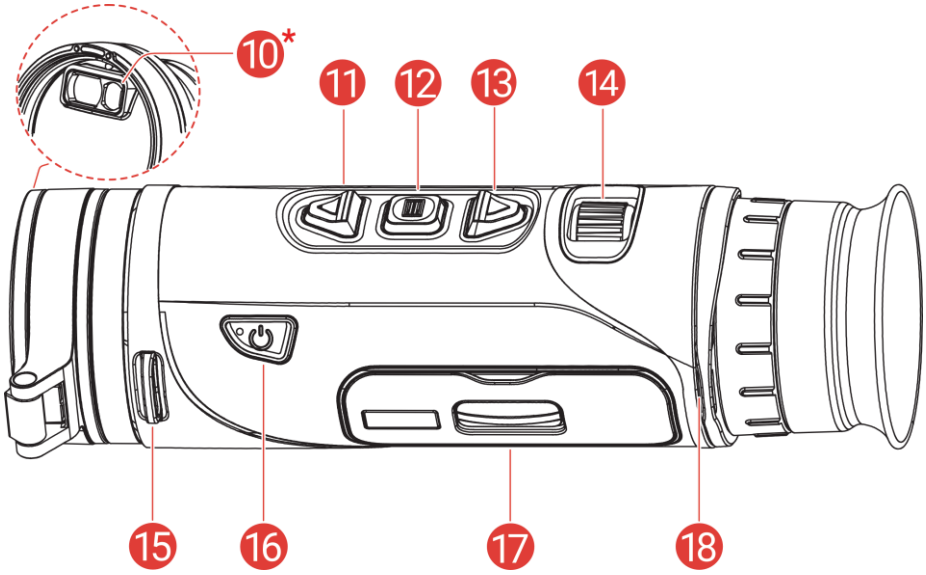


図 1-1 外観

表 1-1 コンポーネントの説明

番号	コンポーネント	説明
1	アイピース	対象を見るために目に可能な限り近づけます。
2, 5, 15, 18	ストラップ取付ポイント	ネックストラップまたはハンドストラップを取り付けます。
3	充電状態インジケーター	● 赤と緑の点滅：エラーが発生しました。 ● 赤色で点灯：充電中です。 ● 緑色で点灯：充電完了。
4	Type-C インターフェイス	タイプ C ケーブルで、デバイスと電源を接続してデータ転送を行います。
6	視度調整リング	視度設定を調整します。
7	三脚マウント	三脚を取り付けます。
8	マイク	音声を録音します。
9	サーマルレンズ	サーモグラフィ用。磁気レンズカバーは傷からレンズを保護します。

番号	コンポーネント	説明
10	レーザー距離計（LRF モデル）	レンズの LRF モジュール。レーザーでターゲットまでの距離を測定します。
11	△ 上キー	*LRF 以外のモデルの場合 非メニューモード： ● 短押し：スナップショット撮影。 ● 長押し：ビデオ録画開始/停止。 メニューモード：上へ移動。
		*LRF モデルの場合 非メニューモード： ● 短押し：レーザー距離測定がオンになります。 ● 2 回押す：レーザー距離測定をオフにします。 ● 長押し：ビデオ録画開始/停止。 メニューモード：上へ移動。
12	モードキー	非メニューモード： ● 短押し：パレットの切り替え。 ● 長押し：メニューに入ります。 メニューモード： ● 短押し：確定/パラメータの設定。 ● 長押し：保存してメニューを終了します。
13	▽ 下キー	非メニューモード： ● 短押し：デジタルズーム切り替え。 ● 長押し：表示の歪みを修正（FFC）。 メニューモード：下へ移動。
14	フォーカスノブ	フォーカスを調整して対象物にピントを合わせます。

番号	コンポーネント	説明
16	⏻ 電源キー	● 短押し：スタンバイモード/デバイスの起動。 ● 長押し：電源オン/オフ。
17	バッテリー収納部	バッテリー保持用です。
11 + 12	上キー + モードキー	*LRF モデルの場合 押すとスナップショットをキャプチャーします。

注意

- デバイスの電源が入ると、電源インジケーターが赤で点灯します。
- 自動画面オフ機能が有効になっている場合、⏻ を押してスタンバイモードにしていても、デバイスを傾けたり回転させたりすることでデバイスのスタンバイモードを解除できます。操作の詳細については、**自動画面オフ**を参照してください。

2 準備

2.1 バッテリーを取り付ける

2.1.1 バッテリーについて

- デバイスは取り外し可能なリチウムイオン 21700 バッテリーをサポートしており、バッテリーサイズは 22.3 mm × 76 mm です。バッテリーの定格電圧と容量は 3.59 V/5500 mAh です。
- 初めて使用する前に、バッテリーは充電器を用いて 4 時間以上充電してください。
- デバイスを長期間使用しない場合は、バッテリーを取り外してください。

2.1.2 バッテリーの取り付け

ステップ

1. スライドしてロックを解除し、バッテリー収納部のカバーを開きます。

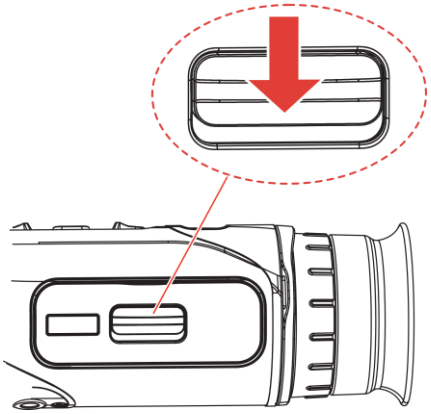


図 2-1 バッテリー収納部カバーを開ける

2. プラスとマイナスのマークにーしたがって、バッテリーをバッテリー収納部に挿入します。

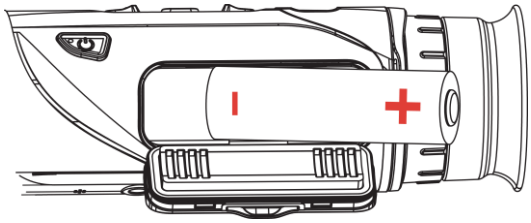


図 2-2 バッテリーを入れる

3. バッテリー収納部のカバーを閉め、スライドしてロックしてください。

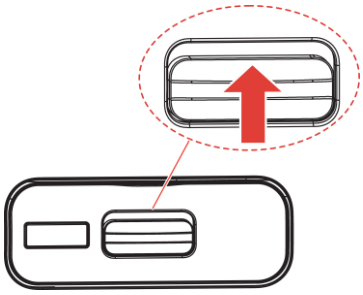


図 2-3 カバーを閉じる

2.2 ケーブルの接続

始める前に

Type-C ケーブルを使用してデバイスを充電する前に、バッテリーがデバイスのバッテリー収納部に取り付けられていることを確認してください。

ステップ

1. タイプ C インターフェースのカバーを持ち上げます。
2. Type-C ケーブルでデバイスと電源アダプターを接続し、デバイスを充電します。もしくは、デバイスとパソコンを接続してファイルをエクスポートします。

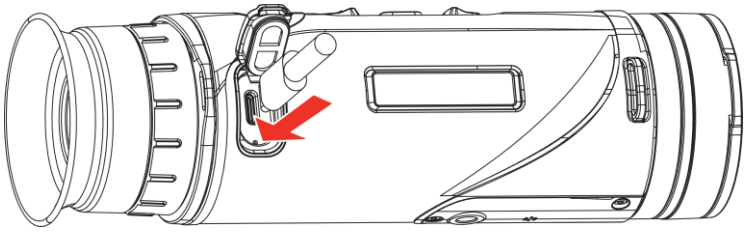


図 2-4 USB 接続

注意

- 充電時は、温度は 0°C～50 °C（32°F～122 °F）でなければなりません。
- バッテリー充電器でバッテリーが充電できます。
- バッテリーを長期間使用していない場合は、使用前にバッテリー充電器で充電してください。この状況では、デバイスの Type-C 充電はサポートされません。

2.3 ネックストラップを取り付ける

ステップ

1. ネックストラップ取付ポイントに、ネックストラップの一端を通します。

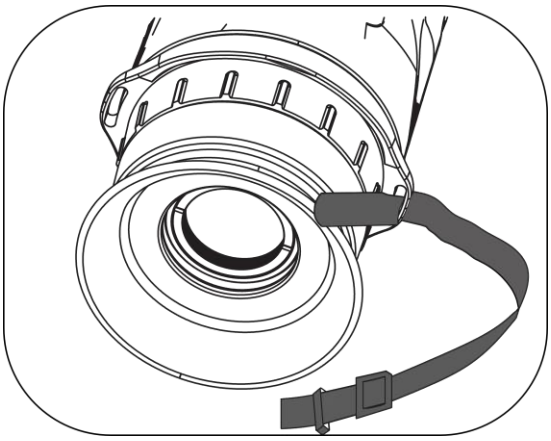


図 2-5 取付ポイントにネックストラップを通す

2. 図のようにストラップバックルにネックストラップを通し、ネックストラップを固定します。

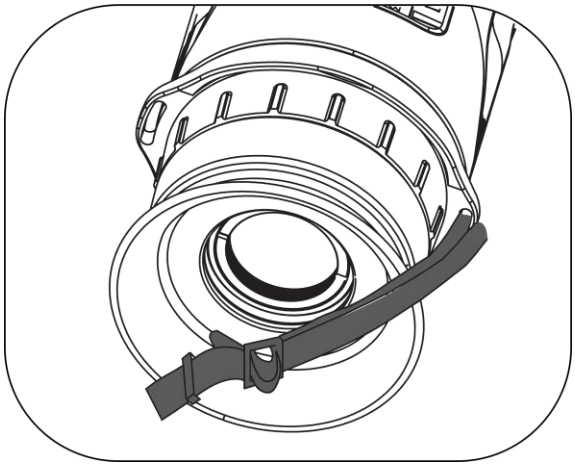


図 2-6 ストラップバックルにネックストラップを通す

3. ストラップキーパーにネックストラップを通します。

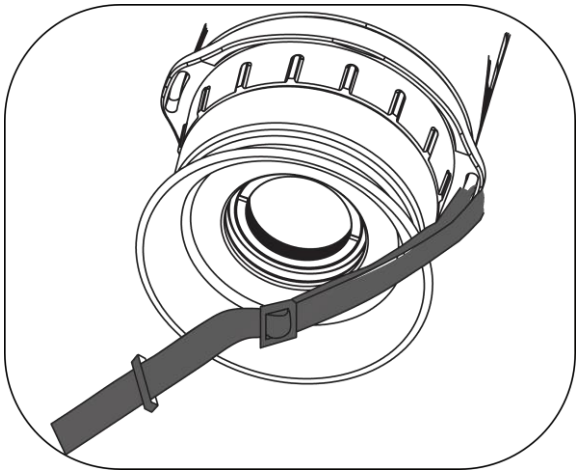


図 2-7 ストラップキーパーにネックストラップを通す

4. 上記の手順を繰り返して取り付けを完了します。ネックストラップの長さは必要に応じて調節します。

2.4 ハンドストラップの取付

ステップ

1. ストラップ取付ポイントに、ハンドストラップの一端を通します。
2. 図のようにストラップバックルにハンドストラップを通し、ストラップを確実に固定します。

3. 上記の手順を繰り返して取り付けを完了し、必要に応じてハンドストラップの長さを調整します。

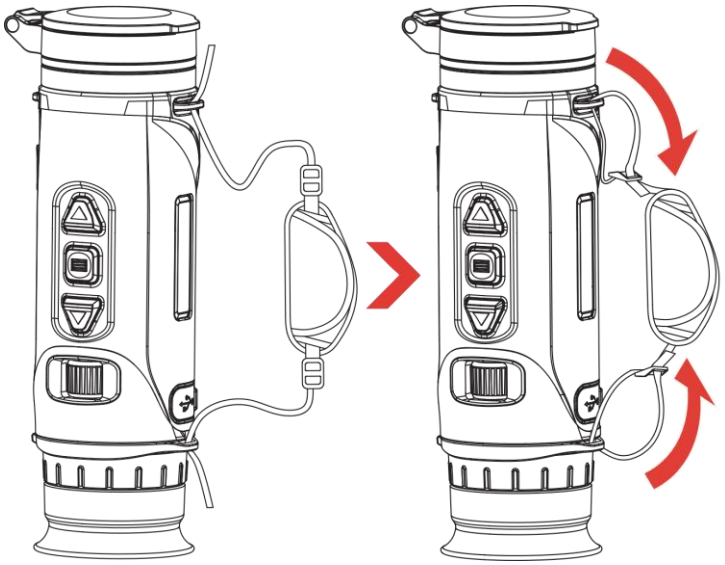


図 2-8 ハンドストラップの取付

2.5 双眼鏡のキャリングバッグの使用

キャリングバッグには安全ストラップと MOLLE システムが付いており、快適に持ち運びでき、デバイスの安全性も確保できます。ストラップの長さは自由に調節できます。バッグは柔軟なオプションで持ち運ぶことができます。

- キャリングバッグには 4 つの取り付けリングがあるので、安全ストラップをバッグに取り付けてスリングバッグやネックポーチとして使用できます。

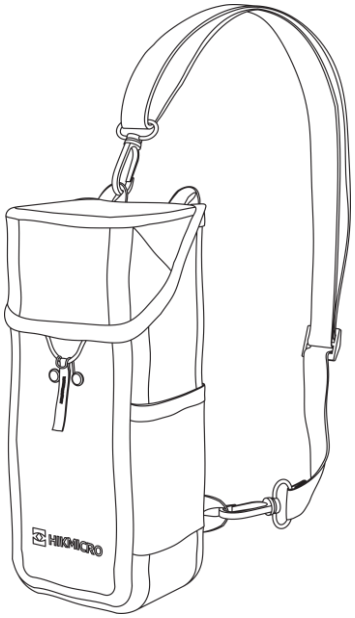


図 2-9 バッグへの安全ストラップの取付

- キャリングバッグは、MOLLE ストラップを使用して他の MOLLE 対応バックパックに取り付けることができ、持ち運び容量が増え、中身を簡単に取り出せます。
- キャリングバッグは、タクティカルベルトまたは通常のベルトに取り付けてウエストパックとして使用できます。

2.6 電源オン/オフ

電源オン

バッテリー残量が十分なときに ⏻ を長押しすると、デバイスの電源が入ります。

電源オフ

デバイスの電源が入っているときに ⏻ を長押しすると、本器の電源が切れます。

注意

- デバイスの電源をオフにすると、電源オフカウントダウンが表示されます。いずれかのキーを押すことで、カウントダウンを中断して電源オフをキャンセルできます。
- バッテリー残量低下による自動電源オフはキャンセルできません。

自動電源オフ

デバイスの自動電源オフ時間が設定できます。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. △ または ▽ を押して、必要に応じ自動電源オフ時間を選択し、を押して確定します。
4. を長押しして設定を保存し閉じます。

注意

- バッテリー状態は、バッテリーのアイコンを参照してください。 はフル充電、 はバッテリー残量低下を意味し、また、 はバッテリーの充電に異常があることを意味します。
- ローパワー注意が表示されたら、バッテリーを充電してください。
- 自動電源オフは、デバイスを操作していない場合、またはデバイスがHIKMICRO Sight アプリに接続されていない場合にのみ有効になります。
- デバイスがスタンバイモードを終了するか、再起動すると、自動電源オフカウントダウンが再開します。

2.7 自動画面オフ

自動画面オフ機能により、画面を暗くすることで省エネルギーを実現し、バッテリーの寿命を延ばせます。

ステップ

1. 自動画面オフを有効にします。
   1) を長押ししてメニューを表示します。
   2) **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
   3) を押して自動画面オフを有効にします。
   4) を長押しして設定を保存し閉じます。
2. 画面がオンになっているときに以下のいずれかの操作を実行すると、デバイスはスタンバイモードになります。
   - デバイスを 70°から 90°の範囲で下向きに傾けます。
   - デバイスを 75°から 90°の範囲で水平方向に回転します。
   - デバイスを 5 分間動かさずに静止させる。
3. 画面がオフになっているときにデバイスを起動するには、以下のいずれかの操作を実行します。
   - デバイスを 0°から 60°の範囲で下向きに、または 0°から 90°の範囲で上向きに傾けます。
   - デバイスを水平方向に 0°から 75°の範囲で回転させる。
   - を押してデバイスのスタンバイモードを解除する。

注意

画面の自動オフを有効にした後でメニューに移動した場合、メニューを終了するまでは画面の自動オフが有効になりません。

2.8 メニューの内容

ライブビューインターフェイスで を長押しすると、メニューが表示されます。

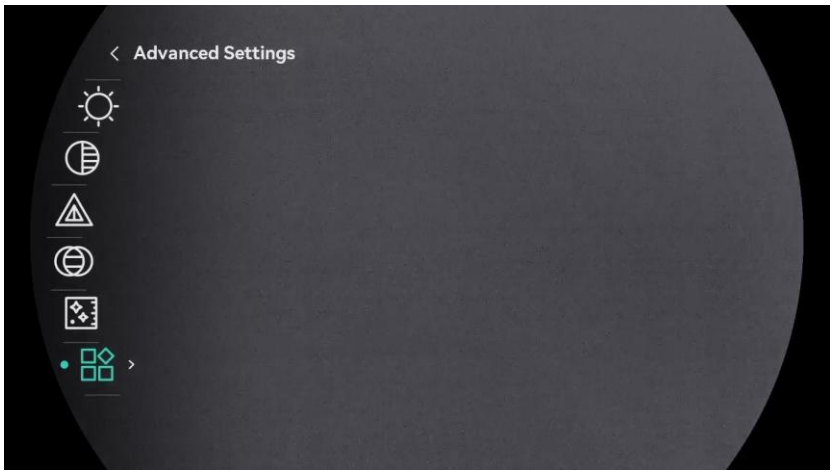


図 2-10 デバイスメニュー(丸型画面スタイル)

図 2-11 デバイスメニュー(角型画面スタイル)

2.9 アプリの接続

ホットスポットを介してデバイスを HIKMICRO Sight アプリに接続すると、スマートフォンで、画像をキャプチャーしたり、ビデオを録画したり、パラメーターを設定することができます。

始める前に

リモートアクセスがデバイスで有効になっていることを確認します。 を長押しして、メニューに入り、**詳細設定** > **リモートアクセス**の順に移動します。

ステップ

1. App Store（iOS システム）または Google Play™ （Android システム）で「HIKMICRO Sight」アプリを検索するか、QR コードを読み取ってアプリをダウンロードし、インストールしてください。

Android システム　　iOS システム

2. を長押ししてメニューを表示します。
3. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
4. を押すと設定インターフェイスに進みます。
5. △ または ▽ を押して **Hotspot_5G** または **Hotspot_2.4G** を選択すると、5 GHz または 2.4 GHz のホットスポットが有効になります。
   - スマートフォンが 5 GHz をサポートしていない場合は 2.4 GHz を使用してください。
   - 車両へのデバイスの取り付けなど、5 m 以内の短い範囲のシナリオには 5 GHz が推奨されます。それ以外の場合は、2.4 GHz を使用してください。
6. スマートフォンの WLAN をオンにして、ホットスポットに接続します。
   - ホットスポット名：HIKMICRO_シリアル番号

- ホットスポットパスワード：メニューの**ホットスポット**に移動してパスワードを確認します。

7. アプリを開き、デバイスの接続 PIN コードを確認して、携帯電話をデバイスに接続します。デバイスのインターフェイスをスマートフォンで確認することができます。

注意

- デバイスが携帯電話に接続されている場合、HIKMICRO Sight アプリ経由でホットスポットのパスワードを変更できます。
- ホットスポットのパスワードは、デバイスをリセットすると更新されます（**デバイスをリセット**）。この場合、デバイスのホットスポットに再接続する必要があります。

2.10 ファームウェアステータス

2.10.1 ファームウェアステータスのチェック

ステップ

1. HIKMICRO Sight を開いて、デバイスをアプリに接続します。
2. デバイス管理インターフェイスにアップグレードプロンプトがあるかどうかを確認します。アップグレードプロンプトがない場合、ファームウェアは最新版となっています。そうでない場合は、ファームウェアが最新版ではありません。

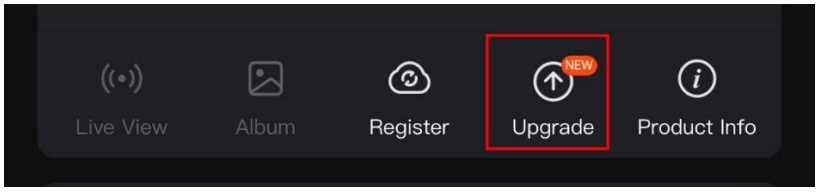


図 2-12 ファームウェアステータスのチェック

3. （オプション）ファームウェアが最新版でない場合は、デバイスをアップグレードしてください。**デバイスのアップグレード**を参照してください。

2.10.2 デバイスのアップグレード

HIKMICRO Sight を介してデバイスをアップグレード

ステップ

1. HIKMICRO Sight アプリを開いて、デバイスをアプリに接続します。
2. アップグレードプロンプトをタップし、ファームウェアアップグレードインターフェイスに進みます。
3. **アップグレード**をタップして、アップグレードを始めます。

注意

アプリのアップデートにより、アップグレード操作が異なる場合があります。実際のアプリのバージョンを参照してください。

PC 経由でデバイスをアップグレード

始める前に

まずアップグレードパッケージを入手してください。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. を押すと設定インターフェイスに進みます。
4. △ または ▽ を押し、**USB フラッシュドライブ**を選択します。

5. タイプ C ケーブルで、デバイスと PC を接続します。
6. 検出されたディスクを開き、アップグレードファイルをコピーして、デバイスのルートディレクトリに貼り付けます。
7. PC からデバイスを取り外します。
8. デバイスを再起動すると、デバイスが自動的にアップグレードされます。アップグレードのプロセスがメインインターフェイスに表示されます。

注意

アップグレードパッケージの転送中は、デバイスをパソコンに接続したままにしてください。さもないと、不必要にアップグレードが失敗したり、ファームウェアが破損することがあります。

3 画像設定

3.1 視度の調整

アイピースが目をしっかりカバーしていることを確認し、対象を狙います。OSD のテキストまたは画像が鮮明になるまで、視度調整リングを調整します。

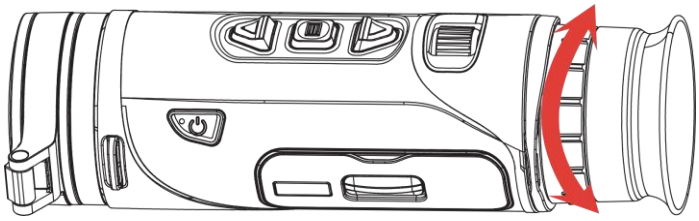


図 3-1 視度の調整

注意

視度を調整するときは、レンズが汚れるので、レンズの表面に触れないでください。

3.2 フォーカス調整

フォーカスノブを少し回して、画像がクリアになるまで対物レンズの焦点を調整します。

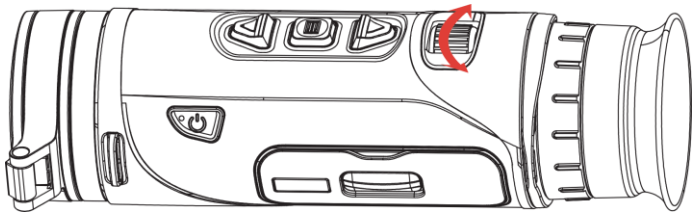


図 3-2 フォーカス調整

注意

フォーカスを調整するときは、レンズが汚れるので、レンズの表面に触れ

ないでください。

3.3 輝度調整

メニューで画面の輝度を調整できます。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. △ または ▽ を押して を選択し、 を押して確定します。
3. △ または ▽ を押してディスプレイ輝度を調整します。
4. を長押しして設定を保存し閉じます。

3.4 コントラストの調整

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. △ または ▽ を押して を選択し、 を押して確定します。
3. △ または ▽ を押してコントラストを調整します。
4. を長押しして、保存して終了します。

3.5 トーンの調整

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. △ または ▽ を押して を選択し、 を押して確定します。
3. △ または ▽ を押して、トーンを選択します。**暖色**と**寒色**を選択できます。

4. を長押しして、保存して終了します。

図 3-3 トーンの調整

3.6 シャープネスの調整

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. △ または ▽ を押して を選択し、 を押して確定します。
3. △ または ▽ を押してシャープネスを調整します。
4. を長押しして、保存して終了します。

図 3-4 シャープネスの比較

3.7 シーンモードの選択

実際の使用条件に応じて適切なシーンを選択すると、表示効果を改善することができます。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択し、を押して確定します。
3. △ または ▽ を押してシーンモードを選択し、を押して確定します。
   - **監視**：通常のシーンには監視モードが推奨されます。
   - **検出**：狩猟環境には検出モードが推奨されます。
4. を長押しして設定を保存し閉じます。

3.8 パレットの設定

種々のパレットを選択して、同一シーンを異なる効果で表示することができます。

3.8.1 カスタム有効パレット

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. を押すと設定インターフェイスに進みます。
4. △ または ▽ を押して必要なパレットを選択し、 を押して有効にします。

注意

少なくとも 1 つのパレットを有効にしてください。

5. を長押しして設定を保存し閉じます。

3.8.2 パレットの切り替え

ライブビューインターフェイスで を押すと、選択されたパレットが切り替わります。

ホワイトホット

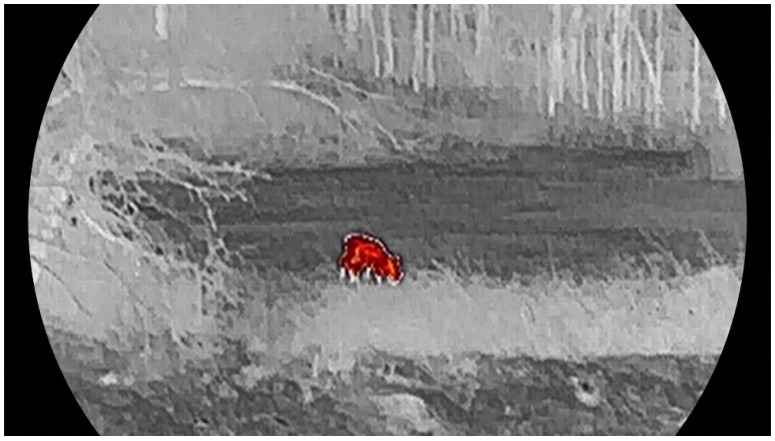
高温部分が明るい色で表示されます。温度が高いほど色が明るくなります。

ブラックホット

高温部分が黒い色で表示されます。温度が高いほど色が暗くなります。

レッドホット

高温部分が赤い色で表示されます。温度が高いほど色が赤っぽくなります。



フュージョン

高温から低温の順に、画像の色が、白、黄色、赤、ピンク、紫と変化します。

赤のモノクロ

画像全体が赤色で表示されます。温度が高いほど色が明るくなります。

緑のモノクロ

画像全体が緑色で表示されます。温度が高いほど色が明るくなります。

3.9 デジタルズームの調整

この機能を使用すると、画像のズームインやズームアウトを行うことができます。ライブビューインターフェイスで ▽ を押すと、デジタルズーム比および実際のズーム比は 1×、2×、4×、8×と切り替わっていきます。

注意

- デジタルズーム比を切り替えると、左のインターフェイスに実倍率が表示されます（実倍率＝レンズの光学倍率 × デジタルズーム比）。たとえば、レンズの光学倍率が 2.8×で、デジタルズーム比が 2×の場合、実倍率は 5.6×になります。
- ズーム比はモデルによって異なる場合があります。実際の製品を手に取って参照してください。

3.10 ピクチャーインピクチャーモードの設定

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. を押すと、この機能が有効になります。

結果

PIP をオンにすると、インターフェイスの中央上に画像の中心が表示されます。

図 3-5 PIP モードの設定

注意

- PIP 機能が有効になっている場合、デジタルズーム比を調整すると PIP ビューのみがズームします。
- PIP ビューには、デバイスのデジタルズームを調整するときに一時的にズーム比が表示されます。

3.11 Zoom Pro

Zoom Pro は、ズーム画像の詳細を強化させます。この機能を有効にすると、ライブビューのズーム画像の精細度が向上します。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. △ または ▽ を押して を選択し、 を押して有効にします。
3. を長押しして設定を保存し閉じます。

結果

ライブビューのズーム画像の詳細が強化されます。

注意

PIP 機能が有効になっている場合、Zoom Pro は PIP ビューでのみ有効になります。

3.12 フラットフィールド補正

この機能は、ディスプレイの不均一性を補正します。ライブビューで ▽ を長押しし、表示の歪みを修正します。

3.13 欠陥画素の補正

本デバイスでは、希望通りに表示されない画面上の欠陥画素を補正することができます。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. を押すと DPC 設定インターフェイスに進みます。
4. を押して X または Y 軸を選択し、カーソルが欠損画素に達するまで △ または ▽ を押して座標を設定します。X を選択するとカーソルは左右に、Y を選択するとカーソルは上下に移動します。
5. を 2 回押して欠陥画素を補正します。
6. を長押しして、保存して終了します。

注意

- ディスプレイで選択した欠陥画素を拡大表示することができます。
- OSD 画面が欠陥画素をブロックした場合、欠陥画素に到達するまでカ

ーソルを移動させると、デバイスは自動的にミラー表示を行います。

4 距離測定（LRF モデル）

レンズに LRF モジュールを搭載したデバイスで、ターゲットと観測位置との間の距離をレーザーで検知できます。

始める前に

距離を測定する際は、手や位置を動かさないでください。さもないと、精度に支障をきたす恐れがあります。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. を押して測定インターフェイスに移動します。 に移動してレーザーレンジングモードを選択し、 を押して確定します。**1 回**と**連続**が選択できます。
   - **1 回**：距離を 1 回測定します。
   - **連続**：連続的に距離を測定し、測定時間を選択することができます。測定結果は 1 秒ごとにリフレッシュされます。
4. (オプション) を選択し、 を押すと、THD ディスプレイを有効/無効にすることができます。有効にすると、レーザーレンジングを実行するときに対象までの THD (真の水平距離) が表示されます。
5. を長押しして設定を保存し、ライブビューインターフェイスに戻ります。
6. ライブビューインターフェイスで △ を押すと、レーザー距離測定がオンになります。

7. 対象にカーソルを合わせ、△ をもう一度押すと、対象の距離が測定されます。

注意

- ライブビューで △ を二度押しすると、レーザー距離測定がオフになります。
- デバイスのバッテリー残量が少ない場合は、レーザー距離測定を有効にできません。

結果

距離測定の結果は、画像の中央上に表示されます。

図 4-1 距離測定結果

- THD が有効になっている場合、直線距離が最初に表示され、次に THD が表示されます。たとえば、上記の 200 yd は直線距離、188 yd は THD です。
- レーザー範囲の測定に失敗した場合、測距結果は「000」と表示されます。

注意

デバイスから放射されるレーザー光は、目の怪我や皮膚の焼損、発火性物質の原因となることがあります。レーザー距離測定機能を有効にする前に、レーザーレンズの前に人や可燃性物質がないことを確認してください。

5 距離測定（LRF 以外のモデル）

デバイスは、対象と観測位置の間の距離を検出できます。

始める前に

距離を測定する際は、手や位置を動かさないでください。さもないと、精度に支障をきたす恐れがあります。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。 を押して測定インターフェイスに進みます。
3. 標的のパラメータを設定します。
   1) ▽ を押すと設定インターフェイスに進みます。△ または ▽ を押し、シカ、ハイイロオオカミ、ブラウンベア、カスタムの中から対象を選択します。
   2) を押して対象の高さ設定インターフェイスに進みます。 を押して桁を選択し、△ または ▽ を押して数字を変更します。

   注意

   高さの範囲は 0.1mから 9.0mまでです。

   3) を長押しして設定を保存し、距離測定インターフェイスに戻ります。
4. トップマークの中心を対象の最上端に合わせ、 を押して確定します。 標的の最上端でカーソルが点滅します。
5. ボトムマークの中心を対象の最下端に合わせ、 を押して確定します。

結果

画像の右上隅に、距離測定結果と標的の高さが表示されます。

図 5-1 測定結果

6 一般設定

6.1 OSD の設定

ライブビューインターフェイスに OSD 情報を表示するかどうか選択できます。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. 詳細設定に移動し、△ または ▽ を押して OSD を選択します。
3. を押して OSD 設定インターフェイスに移動します。
4. △ または ▽ を押して**時刻**、**日付**、**OSD** のいずれかを選択し、を押して、選択した OSD 情報をオンまたはオフにします。
5. を長押しして、保存して終了します。

注意

OSD をオフにすると、OSD 情報がすべてライブビューに表示されなくなります。

6.2 画面スタイルの設定

好みに応じて画面スタイルを選択できます。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. 詳細設定に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。

3. を押して確定します。△ または ▽ を押して、画面スタイルモードを選択します。**丸型**および**角型**を選択できます。
4. を長押しし、プロンプトに従って保存します。デバイスが再起動します。

6.3 ブランドロゴの設定

ライブビューインターフェイス、スナップショット、ビデオにブランドロゴを追加できます。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. を押すと、**ブランドロゴ**が有効または無効になります。
4. を長押しして設定を保存し閉じます。

結果

ブランドロゴが画像の左下に表示されます。

6.4 焼き付き防止

直射日光を避け、焼き付き防止機能を有効にして、熱によるセンサーの損傷のリスクを減らしてください。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。

3. を押すと、**焼き付き防止**機能が有効または無効になります。

4. を長押しして設定を保存し閉じます。

6.5 高温の追跡

シーン内の最高温度の個所を検知し、その場所にマークを付けることができます。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。

2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。

3. を押して機能を有効にすると、最高温度の個所にマークが付きます。

4. を長押しして設定を保存し閉じます。

結果

この機能が有効になると、最高温度の個所に が表示されます。シーンが変化すると、 が移動します。

図 6-1 高温の追跡

6.6 キャプチャとビデオ

6.6.1 画像キャプチャー

LRF 以外のモデルの場合、ライブビューインターフェイスで △ を押すと、写真が撮影されます。LRF モデルの場合、△ と ▤ を同時に押すと、写真が撮影されます。

注意

- 撮影が成功すると、画像が 1 秒間静止し、ディスプレイにプロンプトが表示されます。
- 撮影した写真をエクスポートするには、**ファイルのエクスポート**を参照してください。

6.6.2 オーディオの設定

オーディオ機能を有効にすると、音声がビデオと一緒に録音されます。映像に大きなノイズが入る場合、この機能をオフにすることができます。

ステップ

1. ▤ を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、 を選択します。
3. ▤ を押して、本機能の有効/無効にすることができます。
4. ▤ を長押しして、保存して終了します。

6.6.3 ビデオ録画

ステップ

1. ライブビューイモードで △ を長押しすると、録画が開始されます。

図 6-2 ビデオ録画

2. △ を再度長押しすると、録画を停止します。

6.6.4 ローカルアルバムの表示

撮影済み画像と録画済みビデオが自動的に本器に保存され、ローカルアルバムでファイルを見ることができます。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。

注意

アルバムは自動的に作られ、年+月の名前が付けられます。その月のローカル画像とビデオは対応するアルバムに保存されます。たとえば、2024 年 10 月の画像とビデオは、202410 という名前のアルバムに保存されます。

3. △ または ▽ を押してアルバムを選択し、 を押してアルバムに移動します。
4. △ または ▽ を押して、見たいファイルを選択します。

5. を押すと、選択したファイルと関連情報が表示されます。

注意

- ファイルは時間順に並べ替えられます。一番新しいファイルが上に来ます。直近のスナップショットやビデオが見つからない場合、デバイスの日時設定を確認してください。ファイルを表示している時に、△ または ▽ を押すと、他のファイルに切り替えることができます。
- ファイルを表示している時に ▽ を押すと、次のページに移動します。△ を押すと、前のページに戻ります。
- ビデオを表示している時に を押すと、ビデオを再生したり停止したりすることができます。
- アルバムやファイルを削除する場合、△ と を押してダイアログボックスを呼び出し、プロンプトに従ってアルバムやファイルを削除することができます。

6.7 ファイルのエクスポート

6.7.1 HIKMICRO Sightを介してファイルをエクスポート

HIKMICRO Sight を介してデバイスのアルバムにアクセスしたり、ファイルをスマートフォンにエクスポートすることができます。

始める前に

スマートフォンに HIKMICRO Sight をインストールします。

ステップ

1. HIKMICRO Sight を開いて、デバイスをアプリに接続します。**アプリの接続**を参照してください。
2. メディアをタップして、デバイスのアルバムにアクセスします。

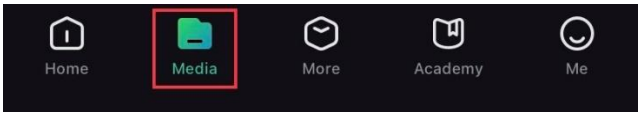


図 6-3 デバイスのアルバムにアクセス

3. **ローカル**または**デバイス**をタップして、写真とビデオを表示します。
   - **ローカル**：前のファイルをアプリで確認できます。
   - **デバイス**：現在のデバイスのファイルを確認できます。

注意

写真またはビデオがデバイスで表示されない場合があります。プルダウンしてページを更新してください。

4. タップしてファイルを選択し、ダウンロードをタップしてファイルをローカルのスマートフォンアルバムにエクスポートします。

図 6-4 ファイルのエクスポート

注意

- アプリで「**自分**」>「**内容**」>「**ユーザーマニュアル**」と進み、より詳細な操作方法を確認することができます。
- また、ライブビューのインターフェースで左下のアイコンをタップして、デバイスのアルバムにアクセスすることができます。
- アプリのアップデートにより、エクスポート操作が異なる場合があります。実際のアプリのバージョンを参照してください。

6.7.2 PCを介してファイルをエクスポート

この機能は、録画したビデオや撮影した写真のエクスポートに使用されます。

始める前に

ケーブルを接続する際には、デバイスの電源がオンになっていることを確認してください。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. を押すと設定インターフェイスに進みます。
4. △ または ▽ を押し、**USB フラッシュドライブ**を選択します。
5. Type-C ケーブルでデバイスとパソコンを接続します。

注意

- ケーブルを接続する際には、デバイスの電源がオンになっていることを確認してください。
- コンピュータディスクを開き、デバイスのディスクを選択します。DCIM フォルダに移動し、撮影年月の名前が付いたフォルダを見つけます。たとえば、2024 年 10 月に画像を撮影したりビデオを録画した場合、「DCIM」>「202410」と移動して画像やビデオを見つけます。

6. ファイルを選択してパソコンにコピーします。
7. PC からデバイスを取り外します。

注意

- パソコンに接続すると、画像が表示されます。ただし、録画、撮影、ホットスポットなどの機能は無効になっています。
- デバイスを初めてパソコンに接続したときに、ドライブプログラムが自動的にインストールされます。

7 システム設定

7.1 日付の調整

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. 詳細設定に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. を押すと設定インターフェイスに進みます。
4. を押して同期を行う日、月、年を選択し、△ と ▽ を押して数字を変更し、再度 を押して設定を終了します。
5. を長押しして設定を保存し閉じます。

7.2 時間を調整する

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. 詳細設定に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. を押すと設定インターフェイスに進みます。
4. △ または ▽ を押すと時制が切り替わります。24 時間と 12 時間の時計が選択可能です。12 時間制を選択した場合は、 を押し、△ または ▽ を押して**午前**または**午後**を選択します。
5. を押して時または分を選択し、△ または ▽ を押して数値を変更します。
6. を長押しして設定を保存し閉じます。

7.3 言語を設定する

この機能で、デバイスの言語を選択することができます。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. を押して言語設定インターフェイスを表示します。
4. △ または ▽ を押して、必要に応じて言語を選択し、 を押して確定します。
5. を長押しして設定を保存し閉じます。

7.4 PC へのデバイススクリーンのキャスト

本デバイスは、UVC プロトコルベースのストリーミングメディアプレイヤーによる PC へのスクリーンキャストに対応しています。詳細は、PC ディスプレイのデバイス画像に表示されます。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. を押すと設定インターフェイスに進みます。
4. △ または ▽ を押して**デジタル**を選択します。
5. を長押しして設定を保存し閉じます。
6. UVC プロトコルベースのプレイヤーを開き、タイプ C ケーブルを介してデバイスを PC に接続します。

7.5 単位の設定

距離表示単位を切り替えることができます。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. 詳細設定に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. を押すと設定インターフェイスに進みます。
4. △ または ▽ を押し、必要に応じて単位を選択します。
5. を長押しして設定を保存し閉じます。

7.6 診断ログを保存

この機能は、トラブルシューティングのためにデバイスの操作ログを収集して保存するのに役立ちます。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. 詳細設定に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. を押して、機能を有効にします。デバイスはデバイスログの収集と記録を開始します。
4. 収集が終了したら、 を押して機能を無効にします。

注意

- 診断ログを無効にすると、診断ログ収集の進行状況を示すプロンプトがインターフェイスに表示されます。この操作は中断できません。ログ収集が終了するとプロンプトは消えます。

- ログを専門家に送信する必要がある場合は、デバイスのルートディレクトリのログフォルダに保存されているログパッケージファイル（*.tar.gz）を見つけてエクスポートします。**PC を介してファイルをエクスポート**を参照してください。
- ログパッケージファイル（*.tar.gz）は、診断ログが有効にされ、その後無効にされた場合にのみ生成されます。機能をオンのままにすると、ログフォルダには *.log ファイルのみが保存されます。

7.7 画面ロックのパスコードを設定する

デバイスへの不正アクセスを防ぐために、パスコードを設定してデバイスの画面をロックすることができます。

7.7.1 パスコードを有効化する

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. を押してこの機能を有効化して、設定インターフェイスに移動します。
4. を押して桁を選択し、△ または ▽ を押して数字を変更します。
5. を長押しして設定を保存し閉じます。

結果

パスコードを有効にすると、デバイスの電源をオンにしたときやスタンバイモードから復帰したときにパスコードを入力する必要があります。

を押して桁を切り替え、△ または ▽ を押して、数字を変更し、 を長押しして、確認します。

注意

パスコードを忘れた場合は、ロック画面で △ を長押しして、パスワードをリセットします。この操作を行うには、デバイスを工場出荷時の状態にリセットする必要があります。

7.7.2 パスコードの変更

パスコードを有効にした場合、必要に応じて変更できます。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択し、 を押して確定します。
3. △ または ▽ を押して を選択し、 を押して設定インターフェイスに移動します。
4. を押して桁を選択し、△ または ▽ を押して数字を変更します。
5. を長押しして設定を保存し閉じます。

7.8 デバイス情報を表示

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。

3. を押して、使用可能なストレージ容量、バージョンやシリアル番号などのデバイス情報が表示できます。
4. を長押しして終了します。

7.9 フォーマット

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して **を選択します。**
3. を押して、プロンプトに従ってデバイスストレージをフォーマットします。

7.10 デバイスの復元

この機能は、輝度、コントラスト、PIP などのデバイスの基本設定のみをデフォルトに戻します。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. を押して、プロンプトに従ってデバイスを初期状態に復元します。

7.11 デバイスをリセット

この機能は、基本設定、ストレージ、パスコード、ホットスポットのパスワードを含むすべてのコンテンツと設定を消去します。

ステップ

1. を長押ししてメニューを表示します。
2. **詳細設定**に移動し、△ または ▽ を押して を選択します。
3. を押して、プロンプトに従ってデバイスを初期状態に復元します。

8 よくある質問

8.1 充電インジケーターが正しく点滅しないのはなぜですか？

以下の項目を確認してください。

- デバイスが標準の電源アダプターで充電されているか、また、充電中の気温が 0°C（32°F）以下でないか確認してください。
- 電源オフ状態でデバイスを充電してください。

8.2 電源インジケーターがオフになっているのはなぜですか？

- デバイスのバッテリー残量が低下していないか確認してください。
- デバイスを 5 分間充電してからインジケーターを確認してください。

8.3 画像が不鮮明なのですが、どのように調整すればよいですか？

画像が鮮明になるまで、視度調整リングまたはフォーカスリングを調整します。**視度の調整**または**フォーカス調整**を参照してください。

8.4 キャプチャーまたは録画が失敗します。何が問題なのですか？

以下の項目を確認してください。

- デバイスがパソコンに接続されているかどうか。この状態では撮影や録画が無効になっています。
- ストレージスペースが一杯かどうか。
- デバイスのバッテリー残量が低下しているかどうか。

8.5 PC がデバイスを識別できないのはなぜですか？

以下の項目を確認してください。

- USB 接続モードが **USB フラッシュドライブ**かどうか。
- 付属の USB ケーブルでデバイスがパソコンに接続されているかどうか。
- 他の USB ケーブルを使用する場合は、長さを 1 m 以下にしてください。

法的情報

©Hangzhou Microimage Software Co., Ltd. 禁・無断複製。

本マニュアルについて

本マニュアルには製品の使用および管理についての指示が含まれています。ここに記載されている写真、表、画像およびその他すべての情報は説明のみを目的としています。本マニュアルに含まれる情報は、ファームウェア更新やその他の理由で通知なく変更されることがあります。このマニュアルの最新版は、HIKMICRO Web サイト(http://www.hikmicrotech.com)でご確認ください。

本マニュアルは、本製品をサポートする訓練を受けた専門家の指導・支援を受けた上でご使用ください。

商標に関する確認

HIKMICROおよびその他の HIKMICRO の商標とロゴは、様々な裁判管轄地域における HIKMICRO の所有物です。

言及されているその他の商標およびロゴは、各権利保有者の所有物です。

法的免責事項

適用法で認められる最大限の範囲で、本マニュアルおよび説明されている製品（ハードウェア、ソフトウェア、ファームウェアを含む）は、[現状のまま]および[すべての欠陥とエラーがある]状態で提供されます。HIKMICRO では、明示あるいは黙示を問わず、商品性、満足な品質、または特定目的に対する適合性などを一切保証しません。本製品は、お客様の自己責任においてご利用ください。HIKMICRO は、本製品の利用に関連する事業利益の損失や事業妨害、データの損失、システムの障害、文書の損失に関する損害を含む特別、必然、偶発または間接的な損害に対して、そ

れが契約に対する違反、不法行為(過失を含む)、製品の責任または製品の使用に関連するものであっても、たとえ HIKMICRO がそうした損害および損失について通知を受けていたとしても、一切の責任を負いません。

お客様は、インターネットにはその性質上固有のセキュリティリスクがあることを了解し、異常動作、プライバシーの流出、またはサイバー攻撃、ハッカー攻撃、ウィルス感染等のインターネットセキュリティリスクによる損害について、HIKMICRO は一切責任を負いません。ただし、必要に応じて HIKMICRO は適時技術的サポートを提供します。

お客様には、すべての適用法に従って本製品を利用し、さらにご自分の利用法が適用法を順守していることを確認する責任があります。特に、肖像権、知的財産権、またはデータ保護等のプライバシー権を非限定的に含むサードパーティの権利を侵害しない手段で本製品を利用する責任があります。動物の密猟やプライバシーの侵害など、法律に違反したり公序良俗に反する目的に本製品を使用してはなりません。.大量破壊兵器の開発や生産、化学兵器・生物兵器の開発や生産、核爆発物や危険な核燃料サイクル、または人権侵害に資する活動を含む、禁じられている最終用途の目的で本製品を使用してはなりません。

本マニュアルと適用法における矛盾がある場合については、後者が優先されます。

規制情報

これらの条項は、対応するマークまたは情報が付された製品にのみ適用されます。

EU 適合宣言

本製品および同梱の周辺機器（適用可能な場合）には「CE」マークが付いており、指令（2014/30/EU）(EMCD)、指令（2014/35/EU）(LVD)、RoHS 指令（2011/65/EU）および RoHS 指令（2014/53/EU）に掲げる適用可能な欧州統一基準に準拠します。

Hangzhou Microimage Software Co., Ltd.では、本デバイス（ラベルを参照）が指令 2014/53/EU に適合していることをここに宣言します。

EU 適合宣言書の全文は、以下のインターネットアドレスから入手いただくことができます：
https://www.hikmicrotech.com/en/support/download-center/declaration-of-conformity/

周波数帯および電力（CE 用）

以下の無線装置に適用される周波数帯域と通信出力（放射および/または伝導）の公称値の許容範囲は次のとおりです：

Wi-Fi 2.4GHz (2.4GHz～2.4835GHz)、20dBm

5 GHz (5.15 GHz to 5.25 GHz)：23dBm

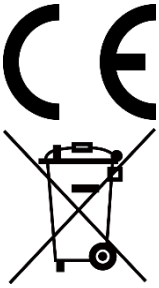
5.15～5.25 GHz 屋内使用のみ。

付属の電源アダプターがない場合は、デバイスに認定メーカーが供給する電源アダプターをご使用ください。電源の詳細な要件については、製品仕様を参照してください。

付属のバッテリーがない場合は、デバイスに認定メーカー

が供給するバッテリーをご使用ください。バッテリーの詳細な要件については、製品仕様を参照してください。

指令 2012/19/EU (WEEE 指令)：この記号が付いている製品は、欧州連合 (EU) の地方自治体の未分別廃棄物として処分できません。適切にリサイクルするために、本製品は同等の新しい装置を購入する際に、お近くの販売業者に返却いただくか、指定された収集場所で処分してください。詳細については以下を参照してください：
www.recyclethis.info



規制 (EU) 2023/1542（バッテリー規制）：この製品にはバッテリーが含まれており、規制 (EU) 2023/1542 に準拠しています。バッテリーは、欧州連合 (EU) の地方自治体の未分別廃棄物として処分できません。特殊バッテリー情報に関する製品資料をご覧ください。バッテリーにはこの記号が付いており、カドミウム (Cd)、鉛 (Pb) を示す文字も記載されています。適切にリサイクルするために、販売業者か、指定された収集場所にご返却ください。より詳細な情報については以下をご確認ください。
www.recyclethis.info

記号の定義

本書で使用されている記号は以下のように定義されます。

記号の	説明
注意	本文中の重要点を強調したりそれを補う追加情報を提供します。
注意	潜在的に危険となりうる状況を表しており、防止できなかった場合、機器の損傷、データの消失、性能劣化など、予測不能な結果が生じる可能性があります。
危険	防止できなかった場合、死亡したり重傷を負いかねない危険を表します。

安全上の指示

これらの指示は、ユーザーが製品を正しく使用し、危険や財産損失を回避できるように保証することを目的としています。ご使用の前に、安全情報をよくお読みください。

輸送

- 輸送中は、デバイスを元のパッケージまたは類似したパッケージに梱包してください。
- 開梱後は、後日使用できるように、梱包材を保存しておいてください。不具合が発生した場合、元の梱包材を使用して工場に機器を返送する必要があります。元の梱包材を使用せずに返送した場合、破損が発生する恐れがありますが、その際に、当社は一切責任を負いません。
- 製品を落下させたり、物理的な衝撃を与えないでください。本器を電磁妨害から遠ざけてください。

電源

- デバイスパッケージに電源アダプタが付属している場合は、付属のアダプタのみを使用してください。電源アダプタが付属していない場合は、使用する電源アダプタまたはその他の電源が制限電源の要件に準拠していることを確認してください。電源出力パラメータについては製品ラベルを確認してください。
- プラグが適切に電源ソケットに接続されていることを確認してください。
- 1台の電源アダプターに2台以上の機器を接続してはなりません。過負荷によって過熱したり、火災発生の危険があります。
- 最大充電速度を達成するには、充電器によって供給される電力の範囲が無線機器に必要な最小8Wから最大8.4Wの間でなければなりません。

バッテリ

- 本デバイスでは、着脱式リチウムイオンバッテリーが使用できます。バッテリーの定格電圧と容量は3.59 V/5500 mAhです。
- 注意: バッテリーを不正な種別のものと交換すると爆発の危険があります。同一または同等のタイプのものとだけ交換してください。
- 異常なシャットダウンが発生する恐れがあるため、不適切なサイズのバッテリーは装着できません。
- 不正な種別のバッテリーとの不適切な交換は、安全装置を無効にする場合があります(たとえば、一部のリチウムバッテリータイプの場合など)。
- 必要に応じて、メーカーが推奨するバッテリーを購入してください。
- ユーザーが購入したバッテリーは、バッテリーの安全性に関連する国際規格（EN/IEC 規格など）に準拠する必要があります。
- 認定メーカーのバッテリーをご使用ください。バッテリーの詳細な要件については、製品仕様を参照してください。
- 使用済みバッテリーは、指示に従って廃棄してください。
- 注意: バッテリーが損傷すると、ショート、火災、爆発の危険があります。バッテリーの頻繁な使用、落下、衝撃、腐食、圧縮によって、ケースのひび割れ、プレートの破損、内部の液体やガスの漏れなどの損傷が発生する場合があります。
- バッテリーが損傷した場合は、直ちに使用を中止し、指示に従って廃棄してください。
- デバイスを長期間使用しない場合は、バッテリーを取り外してください。
- バッテリーを長期保存する場合は、半年に一度はフル充電して、バッテリの品質を保つようにしてください。これを怠った場合、破損の原因となります。
- 内蔵バッテリーは取り外しできません。修理については必要に応じてメーカーにお問い合わせください。

- 内蔵バッテリーが切れる前に、外付けバッテリーを取り付けてください。内蔵バッテリーが切れると、デバイスの電源がオンになりません。
- 充電するときは、バッテリーの温度が0°C～50°C（32°F～122°F）であることを確認してください。
- バッテリーを火や高温のオーブンの中に投入したり、バッテリーを機械的に粉砕したり切断したりしないでください。爆発の原因となることがあります。
- バッテリーを非常に高温または低気圧の環境に放置しないでください。爆発や、可燃性の液体およびガスの漏出を引き起こす可能性があります。
- 充電中は、充電器の2m以内に可燃物がないことをご確認ください。
- バッテリーを取り付けたままのデバイスやバッテリー単体を暖房器具や火気の近くに置かないでください。直射日光を避けてください。
- お子様の手の届くところにバッテリーを置かないでください。
- 化学熱傷の恐れがありますので、絶対にバッテリーを飲み込まないでください。
- この製品には、コイン/ボタン電池が含まれています。コイン/ボタン電池を飲み込んでしまうと、わずか2時間で重度の内部火傷を引き起こし、死亡する可能性があります。
- 電池室がきちんと閉まらない場合は、使用を中止し、お子様の手の届かないところに保管してください。
- 電池を飲み込んだり、身体の一部に入れたりしたと思われる場合は、直ちに医師の診察を受けてください。

メンテナンス

- 製品が正しく動作しない場合、販売店または最寄りのサービスセンターに連絡してください。承認されていない修理や保守行為による問題について、当社はいかなる責任も負いません。
- 専門家によるデバイスの分解および修理の前に、電源が切断されてい

ることを確認してください。

- 対物レンズ、アイピース、距離計などの光学機器の表面を点検します。必要に応じて、この目的のために特別に設計されたツールと溶剤を使用して、光学部品からほこりや砂を除去します(非接触方式を使用することを推奨します)。
- メーカーが指定していない方法で使用した場合、デバイスが提供する保護機能が損なわれる恐れがあります。
- 金属、プラスチック、シリコン部品の外側の表面をきれいな柔らかい布で拭いてください。化学的活性物質や溶剤などは、塗装が剥がれる恐れがあるため、使用しないでください。
- 油分を含まない有機溶剤を使用して、デバイスの着脱式バッテリーの電気接点を清掃します。

使用環境

- 実行環境がデバイスの要件を満たしていることを確認します。動作温度は-30℃～55℃、動作湿度は5%～95%である必要があります。
- デバイスを強い電磁波や埃の多い環境にさらさないでください。
- レンズを太陽や極端に明るい場所に向けないでください。
- デバイスは、乾燥して換気の良い環境に配置してください。
- レーザー装置を使用している場合は、デバイスのレンズがレーザービームにさらされていないことを確認してください。焼損するおそれがあります。
- デバイスを振動面や衝撃が加わりやすい場所に取り付けることは避けてください(これを無視すると、デバイスが損傷する恐れがあります)。
- この機器は、子供が近づく可能性のある場所での使用には適していません。

緊急

デバイスから煙や異臭、異音が発生した場合、すぐに電源を切り、電源ケーブルを抜いて、サービスセンターにご連絡ください。

レーザー

レーザー装置を使用している場合は、デバイスのレンズがレーザービームにさらされていないことを確認してください。焼損するおそれがあります。デバイスから放射されるレーザー光は、目の怪我や皮膚の焼損、発火性物質の原因となることがあります。レーザー距離測定機能を有効にする前に、レーザーレンズの前に人や可燃性物質がないことを確認してください。未成年者が取り出せる場所には置かないでください。本レーザー製品は、IEC 60825-1:2014、EN 60825-1:2014+A11:2021 および EN 50689:2021 にてクラス 1 レーザー製品およびコンシューマ向けレーザー製品として分類されています。

限定的保証

製品保証ポリシーについては、QR コードをスキャンしてください。

メーカー住所

310052 中国浙江省杭州市浜江区西興地区段鳳通り 399 号 2 棟ユニット B 313 号室

Hangzhou Microimage Software Co., Ltd.

法令順守通知：本サーマルシリーズ製品は、アメリカ合衆国、欧州連合、英国などワッセナー・アレンジメントの会員国を含むがそれだけに限定さ

れない各国・各地域で、輸出管理の対象となる可能性があります。サーマルシリーズ製品を外国へ転送・輸出・再輸出する場合は、貴社の法務・コンプライアンス部門もしくは自国の政府機関に、輸出ライセンスの条件についてご確認ください。

HIKMICRO

Hikmicro Hunting.Global
Hikmicro Hunting.Global
HIKMICRO Outdoor
HIKMICRO
www.hikmicrotech.com
support@hikmicrotech.com

UD43622B